

開催日：2019年2月28日（木）13時15分～

リポーター：佐々木ゼミナール 佐々木信昭

■合科型入試（公立の中高一貫校の入試スタイルと類似）について

今年度で4年目の実施。公立中高一貫校入試日である2月3日の午後に同形式の合科型入試を実施し、公立受検生にも受験しやすいように設定したもの。合格者手続き最終日が2月10日であるため、直前に120人の追加手続きがあるなど、積極的な入試施策で受験生を集めている。（公立中高一貫校との併願は10%ほど。白鷗13人、小石川9人、九段9人、両国7人）尚、5日、10日の手続き者は半々だった。合科型入試の模擬試験体験授業（論述チャレンジ講座）を秋に実施し、400人の参加があった。合格者の半数はこの体験授業の参加者だった。特に140字の記述の練習の成果があった。

■帰国子女入試について

1月8日の入試日を12月初めに移動。定員を10名から20名に増加。合格手続きを1月9日から2月4日へ変更。受験科目は英語 or 国語、算数、作文、面接。

12月の入試から2月まで合格手続きを待ってもらえるためか受験者数が増加。国語受験は108名中83名が合格、英語受験は54名中35名が合格。225点満点で、140点で合格。英検準1級4名、2級9名、準2級10名が不合格となった。

■インタラクティブ入試について

英語でのアウトプッシュ入試。英語100点、算数50点、150点満点。48名が受験して21名が合格。英語が満点近くでも算数の得点が伸びずに数名が不合格となった。

■その他

- ・入学後の学力について／合科型入試で入学した生徒の定期テストでの中1時の成績は高くはないが、発言力がある。インタラクティブ組は個性的。
- ・通常の定期テストの偏差値・英語だけの偏差値
 - 2/1 入試生 51.1・50.2
 - 2/2 入試生 51.3・49.6
 - 合科型入試 45.8・44.1
 - インタラクティブ入試 47.2・60.4
 - 帰国入試生徒（英語選択）48.8・63.4（国語選択）50.8・54.4。
- ・国際学級や英語コースは作らない。
- ・中学ではクラスを2つに分けて国語表現（作文やプレゼン、創作）の授業をしている。
- ・英語の学力上位者の英会話取り出し授業は、29年6名、30年35名。
- ・来年度の入試の変更点
 - ① 定員 帰国入試20→25名 インタラクティブ入試20→15名
 - ② 帰国入試の作文はなくし、面接も個人からグループ面接へ。英語は準2級～2級レベルにする。
 - ③ インタラクティブ入試は3級以上の会話力が目安。
 - ④ 合科型入試は、グループワークとし、マイナス点はつけず加点方式とする。（大学の推薦入試、AO入試に備えるため）秋の論述チャレンジ講座にはぜひ参加してほしい。

<感想> 2月1日、2日の一般の従来型の入試もしつつ、合科型入試、インタラクティブ入試、帰国子女入試で別タイプの生徒も刺激剤として導入し、活性化をはかって今後の2020年以降の入試に対応していこうとしているようでした。